

不良債権、3年ぶり減

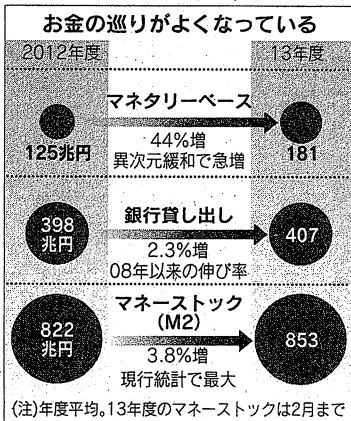
大手4行の前期見通し

業績戻り「正常先」に

三菱UFJ、三井住友、みずほの3メガ銀行とりそな銀行の中堅・中小企業向け不良債権が2014年3月期に3年ぶりに減少した。業績回復で融資に返済の見通しが立ち、正常債権に格上げされたためだ。景気回復の恩恵が実体経済に広く波及している。ただ、円安など経営環境の変化は業態によって影響がばらばらに起きている。回復の好循環が今年度も続くかが焦点になる。

大手銀4行の中堅・中小企業向け不良債権は、減少額の3500億円のものが多かった。景気回復で、約4割にあたる1500億円分が業績改善に立って来たことを意味する。格上げされたことによる。昨年12月末時点で計2兆3千億円となり、昨年3月末から13%減少した。

中小向け融資



「先行き、非常に明るくなってきました」。大阪の中堅電気機器メーカーの田淵電機は、太陽光発電関連の事業が東日本大震災後に拡大。売り上げが急増し13年3月期に赤字から脱却した。メインバンクの三菱東京UFJ銀行も素早く動き、経営状況の好転を受けて債務者の分類を「正常先」に格上げした。昨年9月には、初めて20億円の融資枠を設定。新しい設備投資に意欲を示す田淵電機を新規融資で支

中小企業を取り巻く環境は改善している

○	中小企業の業況判断指数(DI)は約22年ぶりにプラス圏(日銀短観)
○	07年から減少が続いてきた銀行融資が昨年7月から8カ月連続増(日銀調査)
○	47%の企業が今年度賃上げ予定(帝国データバンク調査、07年度以来最高)
○	倒産件数17カ月連続減(東京商工リサーチ調査、過去5番目の長さ)
×	休廃業・解散、最多3万社(昨年、東京商工リサーチ調査)

える構えだ。3メガ銀行は14年3月期の最終利益が前年同期比1割増の2兆円台半ばと過去最高水準になり、各行の総与信額に占める不良債権の比率も1・2・1・4%と低い水準で推移している。中小企業向け融資の不良債権は14年3月末までの1年間でみても3年ぶりの減少となる見通しだ。

13年度の企業倒産件数は1990年代初頭のレベル末期以来の低水準となった。だが、東京商工リサーチの友田信男取締役情報部長は「消費増税による駆け込み需要の反動が大きければ、倒産が増加する可能性もある」という。

緩和マネー、じわり浸透

銀行融資 バブル後2番目の伸び

日銀の異次元緩和導入から1年がたち、日本経済全体にじわりとお金が巡り始めた。日銀が10日発表した貸出・預金動向によれば、2013年度

の銀行の平均貸出残高は1年で2・3%増え、バブル崩壊後で2番目の伸び率となった。中小企業向けを含む民間金融機関の貸出残高は407兆円と11年ぶりの高水準。伸び率は08年(2・7%)を下回るが、当時よりも下回っている。日銀が昨年4月に始めた大規模緩和が影響している。国債の市場買入れを急増させ、大量のマネーを供給。銀行の融資を支援する政策も強化し、融資を後押ししている。銀行の長期貸し出し

が回復する企業が増える一方、道半ばで行き詰まった企業もある。今年2月に破産を申請した北海道の運送会社は、円安による燃料価格の高騰が響いた。リース会社との返済猶予交渉も長引いた。取材に応じたこの経営者は「円高化法に基づき返済猶予を受けた時点で時間切れだった」と漏らす。

13年度の企業倒産件数は1990年代初頭のレベル末期以来の低水準となった。だが、東京商工リサーチの友田信男取締役情報部長は「消費増税による駆け込み需要の反動が大きければ、倒産が増加する可能性もある」という。

融資が増えれば、世の中のお金の巡りも良くなり、企業や個人が持つお金が増える。経済全体のお金の量を示すマネーストック(M2)は前年比4%近く伸びており、03年からの現行統計では最大だ。

継承 × 創造

安田不動産株式会社

www.yasuda-re.co.jp

本社: 東京都千代田区神田錦町二丁目11番地

日銀の岩田規久男副総裁は「金融緩和がマネーストックの伸び率に極めて効果的に働いている」と指摘する。